ヒルデガルト《Ordo Virtutum》の旋律法

――《Ludus Danielis》との比較を中心に――

遠　藤　友美賀

は　じ　め　に

《徳たちの劇 Ordo Virtutum》（以下《OV》）は，中世の神秘主義者として，また最も古い女性作曲家の一人として知られるヒルデガルト・フォン・ビンゲン Hildegard von Bingen（1098–1179）によって生み出された宗教音楽劇である。

この作品のテキストに関しては，ドイツ語をはじめ，英語や日本語への翻訳も試みられるなど，数多くの研究がなされているが，その一方で音楽についての研究となると，モレント Stefan J. Morent らの論文など(1)，音楽の形式的，様式的研究もいくつかは発表されているものの，研究が充分になされているとは言いがたい。

そこで本論文では，成立年代が近く，かつ楽譜が完全な形で現存するラテン語の音楽劇作品として，《ダニエル劇 Ludus Danielis》（以下《LD》）をとりあげ，《OV》との比較分析を試み，その結果浮き上がってくる両作品の相違点から，《OV》の音楽的特色を見いだすことを目的とする。

なお分析の際，《OV》は，ダヴィッドソン Audrey Ekdahl Davidson の編集によりヒルデガルト出版社 Hildegard Publishing Company から出版されている現代譜(2)を主に用い，その補いとしてネウマ楽譜(3)およびその訳譜にあたる四角符楽譜(4)を参照。《LD》は，中世学会出版社 Medieval Institute Publications より発行された，オグデン Dunbar H. Ogden の編集による論

文集“*The Play of Daniel : Critical Essays*”(5)に掲載されている手写譜，“Egerton MS. 2615, fols. 95r–108r”の図版およびザイルストラ A. Marcel J. Zijlstra 編曲の現代譜をもとに，分析をおこなうものとする。なお，この“Egerton MS. 2615”は初演から 1 世紀ほど経った 13 世紀前半ごろに成立したもので，現在は大英図書館所蔵，現存する唯一の手写本で，その楽譜は，《OV》と同じ，四線ネウマで記譜されている。

第 1 章　作品の構成と内容

第 1 節　《OV》の構成と内容

《OV》は，「悪魔 Diabolus」の誘惑による「魂 Anima」の堕落と改悛がテーマとなった物語で，「謙遜 Humilitas」，「勝利 Victoria」といった 17 の擬人化された「徳たち Virtutes」と「魂」，「悪魔」が登場し，「魂」をめぐって

表 1　《OV》の構成と内容

部分	曲		登場人物	内　　容
	通し番号	数		
プロローグ	1–3	3	父祖・預言者たち，徳たち	父祖・預言者たち，徳たちの出自が述べられる。
Ⅰ	4–21	18	魂，徳たち，神の英知，悪魔，謙遜	罪を嘆く魂と，励ます徳たち。魂は改悛へと傾きはじめるが，そこへ悪魔の誘惑。
Ⅱ	22–57	36	謙遜，愛，神への畏怖，悪魔，従順，信仰，希望，貞潔，純潔，世俗蔑視，天上への愛，紀律，慎ましさ，慈悲，勝利，思慮，忍耐，魂	徳たちがそれぞれ自己紹介。悪魔は徳たちとは全く逆の考え方を示す。徳たちは，女王である謙遜を先頭に，悪魔と闘う意志とその方法を語る。
Ⅲ	58–71	14	徳たち，魂，謙遜	過ちを犯した魂が戻り，後悔していることを徳たちに告げる。
Ⅳ	72–86	15	悪魔，魂，謙遜，勝利，徳たち，貞潔	再び悪魔が登場するが，改悛した魂と徳たちによって悪魔は征服され，神が賛美される。
エピローグ	87	1	?	父なる神への（キリストの）祈りのメッセージ。

徳たちが「悪魔」と闘いを繰り広げるラテン語による宗教音楽劇（道徳劇）である。ダヴィッドソンによると，劇はプロローグ，4 つの場面，そしてエピローグから成り[6]，テキストは，1151 年に完成されたといわれているヒルデガルトの最初の幻視の書『神の道を知れ Scivias』[7]の第 3 部，第 13 幻視「恩寵の賛歌」をもとにヒルデガルト自ら創作したものである。そのテキストに彼女自身が，交代する独唱と合唱によって演奏される計 82 曲の単旋律による歌を通作している。そして，これらの曲の間に，旋律を伴わない「悪魔」のセリフが 5 回挿入されている。

なお，この劇の作曲年や上演については記録が残されていないものの，ヒルデガルトが，18 人の修道女らとともにディジボーデンベルク男子修道院付属修道房から，ルーペルツベルクに新しく設立した女子修道院へ移住した 1152 年 5 月 1 日に，新修道院献堂式で初演されたという説が一般的である。

第 2 節 《LD》の構成と内容

《LD》は，12 世紀末ないし 13 世紀のはじめごろに上演されていたラテン語の典礼劇で，北フランスのボーヴェの町で演じられていたと言われている。全体は，プロローグと 3 つの場面，そしてエピローグから成ると考えることができる（表 2）。内容は，旧約聖書のダニエル書の第五章と第六章，およびダニエル書外典に基づいており，道徳的なテーマを強調している。劇は，最初に，この典礼劇がボーヴェの若者たちによって作られたものであることが述べられてから，本編が始まる[8]。

旧約聖書の中の四大預言者のひとりであるダニエルは，バビロニア王の宴席での謎解きによって賞賛され高位を与えられるが，それを妬んだ奸臣たちの讒言によってライオンの穴に投げ込まれてしまう。しかしながら彼は，天使に護られ，また別の天使が預言者ハバククを訪れ，ダニエルのもとに食べ物を運ばせ，ダニエルは奇跡的に救われる。最後の場面では，預言者ダニエルがキリストの誕生を預言。これに答えて天使がイエスの降誕を告げるところから，この作品はクリスマス・シーズンに上演されていたと考えられている。作品はここ

表 2 《LD》の構成と内容

部分		曲 通し番号	曲 数	登場人物	内容
プロローグ		1	1		ボーヴェの若者による作品であることが語られる。
Ⅰ	1	2–10	9	ベルシャツァル王，諸侯たち，太守たち，博士たち	王と諸侯たち入場。酒宴の席。神聖な杯。突然，壁に謎の言葉「メネ，テケル，パルシン」。誰も謎を解けない。
	2	11–14	4	Ⅰ－1＋王妃	王妃が従者とともに登場，ユダヤの捕囚ダニエルなら解けると助言。
	3	15–16	2	諸侯たち，ダニエル	諸侯たちがダニエルのもとへ。
	4	17–24	8	諸侯たち，ダニエル，王，太守たち，王妃	諸侯たちがダニエルを連れて王の元へ戻る。「神が王の非道を怒り，断罪の時が近づいたことを告げた」と謎解き。王は自らの衣をダニエルに。神器（杯）も片付けさせる。王妃退場。
Ⅱ	1	25–27	3	ダレイオス王，キターラ弾きたちと諸侯たち，（ベルシャツァル王），2 人の者（諸侯）	ダレイオス王登場。ベルシャツァル王を追い落とす。ダニエルを連れてくるよう命令。
	2	28–29	2	使者たち，ダニエル	使者たちダニエルのもとへ。
	3	30–44	15	ダニエル，王，他の助言者たち，太守たち？	ダニエル，王のもとへ。王国の後見人に任命される。他の妬んだ助言者たちが，ダニエルを殺そうと企てる。
	4	45–49	5	ダニエル，天使たち，（ライオン），ハバクク	ダニエル，ライオンの穴に投げ込まれるが，天使に護られる。別の天使がハバククに，ダニエルのもとに食物を運ばせる。
	5	50–55	6	ダニエル，王，妬んだ助言者たち，（ライオン）	ダニエルの無事を王が喜ぶ。ダニエルを陥れた者たちをライオンの穴へ。ダニエルの信じる神こそが唯一の神であると宣言。
Ⅲ		56–57	2	ダニエル，（王），天使	ダニエルは，主の来たることを預言。これに答えるように天使がイエスの降誕を告げる。
エピローグ		＊	1	先唱者たち	《テ・デウム》

までだが，写本によれば，これに続いて《テ・デウム Te Deum》が歌われることになっている。

第 2 章　音楽的考察

これより，両作品の音楽的な側面に焦点をあてて考察を進める。なお，以下の考察で触れた諸側面を曲ごとに分析して全曲まとめた表を，論文の末尾に挙げた。

第 1 節　旋法

《OV》で使用されている旋法は，D, E, G, A, C の 5 種類，《LD》は，これに F を加えた 6 種類である（転旋法での使用を含む）。さらに詳しく述べるなら，《OV》は，圧倒的多数を占めるのが，E（38 曲），D（29 曲）の 2 旋法。これらのみで全体のおよそ 8 割にのぼる（表 3）。一方《LD》では D（26 曲）と G（15 曲）が 7 割強を占めている（表 4）。

さらに，表 3, 4 に加えて論文末尾の一覧表，「Modus」欄をあわせ見るならば，《OV》では，物語の進行とともに，D→E . . .と主音が旋法的に移り変わっていくのに対して，《LD》では，D→G→C→E . . .と調的な移り変わりがうかがえ，《LD》の音楽的展開は，《OV》のそれに比べると，より顕著な劇的効果を生み出していると見ることもできよう。ところが，音域という観点を加味すると，また別の捉え方も可能になってくる。

表 3　《OV》の使用旋法

D	E	G	A	C	D→E	G→D	G→E	E→D→E
29	38	3	1	7	1	1	1	1

表 4　《LD》の使用旋法

D	E	F	G	C	C→A
26	5	1	15	9	1

第2節　音域

論文末尾の一覧表,「Modus」欄の右側，帯状に示したのが，各曲で使用されている音高の分布（これによって音域も把握できる）で，右隣り「Ambitus」欄は，音域の度数を数値で表したものである。これらを見ると,《LD》は，広い曲では11度（太守たちに捕えられたダニエルが王に嘆きの言葉を投げかける43番）あるが，とはいえほとんどの曲が8度以下で，9度以上の音域を持つのはわずか10曲である。

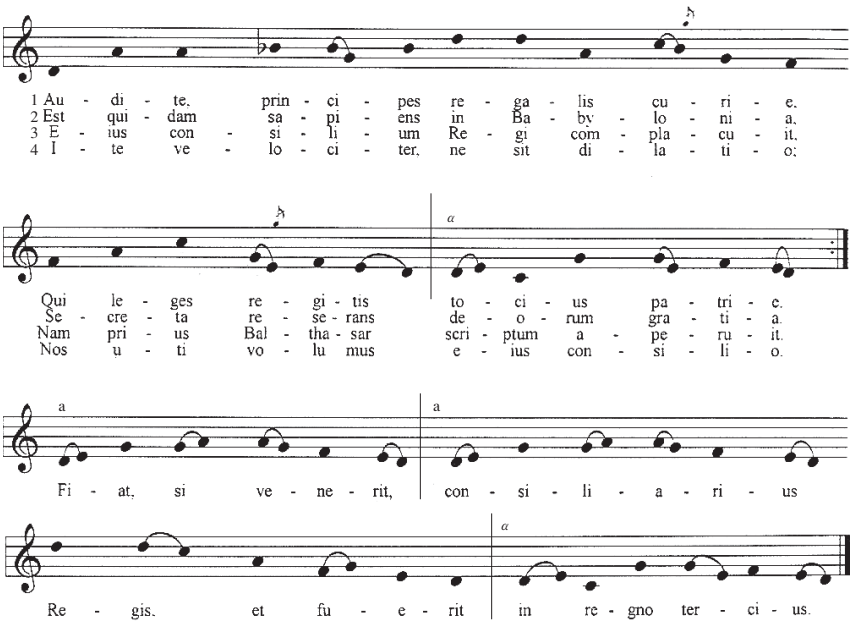
それに対して《OV》は，大半が8度以上，中でも85番および87番は12度におよぶだけでなく，9度以上の曲が39にものぼり，これは全曲数の約半数に相当する。また使用音高については，全曲を通して見るならば,《OV》がa–a”の2オクターヴであるのに比べ,《LD》はa–c”’の2オクターヴ＋3度，と分布が若干広く，先に述べた各曲の音域度数などを勘案すると，作品全体としては,《LD》は《OV》に比べて上下動が激しいといえるのだが，1曲内というレヴェルで見れば，その使用音域度数の広さから,《OV》の旋律の方が，より豊かな広がりが感じられるのである。

第3節　曲の構造，音型および音程

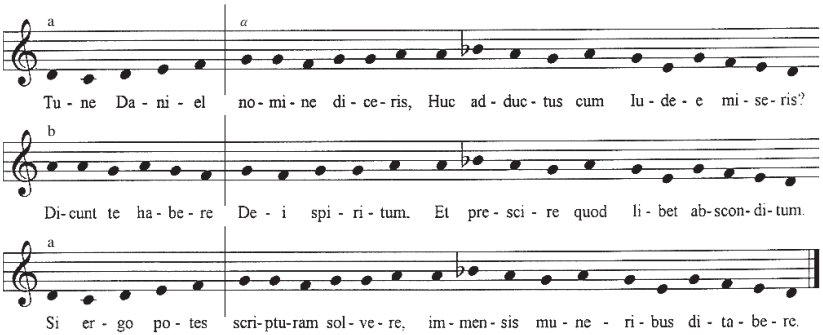
《LD》と《OV》の楽譜を目にして，もっとも顕著な相違点のひとつとして挙げられるものに，曲の構造がある。

《LD》の中には，分節化，図式化できるような曲，すなわち，いわゆるリピート（譜例1）や，［a＋α］＋［b＋α］＋［a＋α］（譜例2）といったような旋律型レヴェルの反復あるいは回帰によって成り立っている曲が数多く存在する。しかしながら,《OV》の各曲の旋律では－ヒルデガルトの他の作品も同様であるが－リピートと呼べるような構造は見当たらず，また旋律型レヴェルで見ても，類似する形があるとはいえ，それらは部分的なもので，曲全体を形式化する働きをしているものを見いだすのは困難である。ヒルデガルトの生み出す旋律は，曲としての構造ありきで成り立っているというよりはむしろ，湧き出るままに表出されるような，より感覚的な趣が強いようである。

譜例 1　《LD》Nu. 27



譜例 2　《LD》Nu. 19



次に音型および音程だが，これについても両作品で大きな違いが見られた。《OV》では 5° 上行あるいは 5° ＋4° ＝8° 上行が頻繁に見られたり，5° ＋5° ＝9° 上行という一種独特の音型までも奏でられたりするのに対して，《LD》では，

5° 上行はあるものの，5°＋5°＝8° 上行は見られず，その他では 3°＋3°＝5° 上行がとりわけ多く，中には 3°＋3°＋3°＝7° 上行というものも確認できた。このように，跳躍音程の出方から見ると，《LD》は 3° 中心のやや調的感覚が，そして《OV》は 5° を中心とした発想が垣間見えるといえるだろう。

第 4 節　音節数

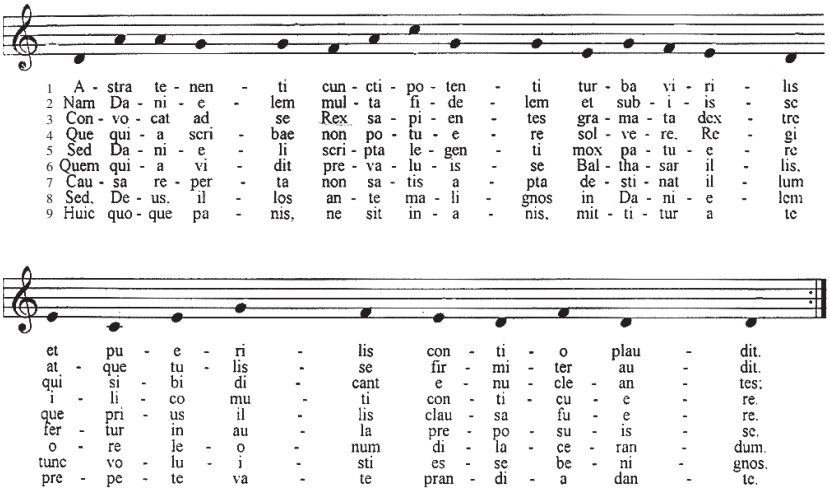
ヒルデガルトの，《シンフォニア》と総称される 77 曲の宗教歌では，歌詞の 1 音節に対して 5 音以上の音の連なりがあてられた，いわゆるメリスマティックな旋律を持つ作品が数多く見られるのだが，《OV》もやはりメリスマティックなものが多く，87 曲中（うち 5 曲は悪魔のセリフで旋律を伴わない），66 もの曲がそれに該当していて，そのほかの曲はネウマティックおよびシラビックな旋律でできている。完全にシラビックな曲はひとつもない。

その一方で《LD》は，大半がネウマティックで，完全にシラビックな曲が 15 曲（うち 5 曲は，それぞれ一箇所のみネウマティック），メリスマティックな旋律を含む曲は，わずか 4 曲しか見られない。

第 3 章　比較分析

《LD》の音楽には，その節回しにパターンが感じられ，民衆の歌や踊りを彷彿とさせるようなものがいくつも見られる（譜例 3）。このような特徴は，《OV》には見られず，両作品の聞こえ方に大きな違いがあるのは，こういった点も大きく作用しているようだ。そこで，両作品から，ある程度条件を絞って対象曲を選択し，それらを比較してみたい。

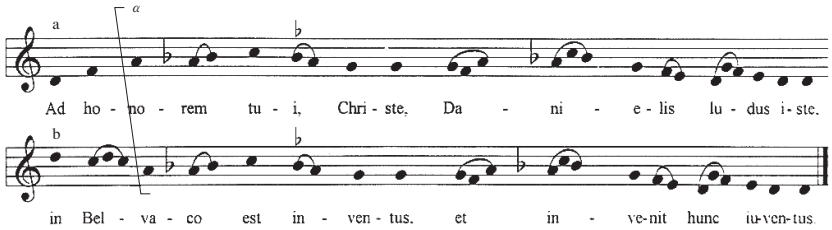
譜例 3　《LD》Nu. 2



第 1 節　分析対象曲の条件

まず，《LD》については，一曲の使用音数があまりにも少ないもの，先に述べたような，分節された旋律が図式的にパターン化できる曲，そして明らかに長いフレーズ・レヴェルでの旋律の反復利用が見られるような曲（譜例 4）を除外した。残った曲から，さらに《OV》と同条件にするために，「メリスマを含まない」という条件で選んだところ，13 曲が分析対象となった。

譜例 4　《LD》Nu. 1



一方《OV》に関しては，同様に短すぎるものをまず除外した。しかし，旋

律の図式的分節化，また反復利用という観点で見ると，《OV》においては，先に出てきた節回しの音が，後の旋律の構成音の一部を成す曲はあっても全く同じ形で出てくるわけではない。さらに曲全体の節回しがパターン化できるとはいえない。また，フレーズ・レヴェルでの旋律の反復利用についても，類似する形ではあっても，やはり構成音は変化を帯びている。それらのことから，除かれる曲はなく，残る「メリスマを含まない」という条件のみを適用したところ，11 曲が分析対象曲として残った。

第 2 節　分析

結論から述べれば，分析の対象として抽出した《LD》13 曲と《OV》11 曲の間には，第 2 章で見いだした各作品のもつ特色の違いからは想像しがたいほど似通った成り立ちをもっていることが明らかとなった。たとえば，第 2 章第 3 節で考察した音型や音程について言うと，作品全体としては，《OV》では 5° 上行あるいは 5°＋4°＝8° 上行が特徴的に響いていたり，5°＋5°＝9° 上行という独特の音型までも奏でられたりしていたのに，メリスマを含む曲の除外というだけで，かろうじて 5° 上行あるいは下行の動きは確認できるもの

表 5　《OV》対象曲の音程（3° 以上）

音程 / Nu.	3°		4°		5°		[3°＋3°] 上行	[5°＋4°] 上行
	上行	下行	上行	下行	上行	下行		
20	○	○		○				
23	○	○						
31	○	○				○		
44	○	○	○		○			○
54	○	○	○			○		
58	○	○						
70	○	○						
73	○	○			○			
74	○	○	○		○			
79	○	○			○			
86	○	○	○	○				

表 6　《LD》対象曲の音程（3° 以上）

音程 / Nu.	3°		4°		5°		［3°＋3°］上行	［5°＋4°］上行
	上行	下行	上行	下行	上行	下行		
4	○	○	○	○				
7			○		○			
9	○	○	○			○	○	
12	○		○					
43	○	○		○				
44	○	○						
46	○	○		○			○	
48	○	○						
49	○	○					○	
50	○	○						
52	○	○		○		○		
55	○	○			○		○	
57	○	○						

の，5°＋4°＝8° 上行は 44 番わずか一曲でしか見いだしえなかったのである（表 5）。その点《LD》の特色に挙がっていた 3°＋3°＝5° 上行は 13 曲中 4 曲で登場していて，そのほか 5° なども複数織り込まれていた（表 6）。

また，音域に関しても，《OV》は，全体の約半数の曲が 9° 以上であるにもかかわらず，対象曲ではたった 3 曲である。その一方で《LD》は全体でも 10 曲しか 9 度以上のものが見られなかったのに，対象曲では《OV》と同数の 3 曲が 9 度以上に該当している（表 5, 6 の曲番号背景色がグレーの曲）。

お　わ　り　に

以上，やや足早ではあったが，《OV》との比較対照作品として《LD》を取り上げ，その構成要素ごとに両作品の特色について考察してきた。結果，これまでヒルデガルトの大きな特色であると考えられてきた跳躍音程の使用や広い音域などといったものが，《OV》では，メリスマティックな曲には多数含まれ

るが，そうでない曲にはほとんど含まれていないという実態，さらには，拍子感や反復を持ち，民衆の歌や踊りを彷彿とさせるようなシンプルで覚えやすい節回しなどが見られる《LD》とは対照的に，あくまで宗教音楽という枠組みから逸脱することなく，しかしながら，広い音域や斬新な音程を用いるなど，さまざまな表情を作り出すことによって新たな世界を構築し，聴く者を魅了しているのだということが明らかになった。

むろん《LD》については，初演から現存する写本の成立までの間に約 1 世紀という年月が流れていることからすれば，その音楽にさまざまな変化が加えられたであろうことは無視できず，初演当時の音楽と写本に記されているそれとが必ずしも一致しているとはいえない。したがって，本論文は，あくまで 13 世紀前半当時における《LD》の旋律法を対象にしたにすぎない。とはいえ，初演の頃の作品の様相が全く消えうせてしまっているはずはなく，約 1 世紀に渡って上演され，伝えられてきたものが写本に記されていることには間違いないだろう。

今回は紙面の都合もあり，劇の構成や内容，キャラクターと旋律の成り立ちとの関係などについては詳しく検討できなかったが，こういった内容についての検討は次の機会に譲りたい。

註

(1) Marianne Richert Pfau/ Stefan J. Morent, *Hildegard von Bingen. Der Klang des Himmels* (Annette Kreutziger-Herr, Melanie Unseld ed., *Europäische Komponistinnen* Band 1). Köln, Weimar, Wien : Böhlau Verlag, 2005, S. 214–252.

(2) Hildegard von Bingen, *Ordo Virtutum*. Edited by Audrey Ekdahl Davidson. Bryn, Pa : Hildegard Publishing Company, 2002.

(3) Hessische Landesbibliothek Wiesbaden, Riesenkodex ; Hs. 2, f. 478^{v}–481^{v}.

(4) Hildegard von Bingen. *Lieder*. Nach den Handschriften herausgegeben von Pudentiana Barth, M.Immaculata Ritscher und Joseph Schmidt-Görg. Salzburg : Otto Müller Verlag, 1969 ; 2. Aufl. 1992, S. 165–205, 300–315.

(5) Dunbar H. Ogden ed., *The Play of Daniel : Critical Essays*. Kalamazoo, Michigan : Medieval Institute Publications, 1996, pp. 87–126, plates 1–27.

(6) Audrey Ekdahl Davidson ed., *The Ordo Virtutum of Hildegard of Bingen : Critical Studies*（Early Drama, Art, and Music Monograph, No. 18）. Kalamazoo, Michigan : Medieval Institute Publications, 1992, pp. 8–9.

(7) Hildegard von Bingen. *Wisse Die Wege-Scivias.* Nach den Originaltext des illuminierten Rupertsberger Kodex der Wiesbadener Landesbibliothek ins Deutsche. Übertragen und Bearbeitet von Maura Böckeler. 1. Aufl. Berlin : St. Augustinus-Verlag, 1928 ; 8. Aufl. Salzburg : Otto Müller Verlag, 1987, S. 351–370.

(8) 写本には特定の作者名は明記されていないのだが，作品冒頭の献辞の歌から，ボーヴェの若者たち（おそらくは大聖堂付属学校の学生や聖歌隊員，下級聖職者）の手で作られたものと推察されている。

参考楽譜（註に挙げたもの以外）

1．Greenberg, Noah ed., *The Play of Daniel : A Thirteenth-Century Musical Drama.* New York : Oxford University Press, 1959.

主要参考文献（註に挙げたもの以外）

1．Sadie, Stanley ed. ; Tyrrell, John exe. ed., *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*（second edition）. Vol. 16. London : Macmillan, 2001.（Web DB）

2．Crocker, Richard and Hiley, David ed., *The Early Middle Ages to 1300.* New York : Oxford University Press, 1990.

3．今橋朗，竹内謙太郎，越川弘英　監修，川端純四郎　編集協力『キリスト教　礼拝・礼拝学事典』東京：日本基督教団出版局，2006 年。

4．川端純四郎『CD 案内　キリスト教音楽の歴史』東京：日本基督教団出版局，1999 年。

5．山内眞　監修『新共同訳 新約聖書略解』東京：日本基督教団出版局，2000 年。

6．十枝正子「ビンゲンのヒルデガルトの宗教音楽劇〈神の諸力の劇〉」『エリザベト音楽大学研究紀要』第 26 巻，2006 年。

――大学院文学研究科博士課程後期課程――

《Ordo virtutum》 一覧表

Nu.	Incipit	Rubriken	Modus	a	b	h	c'	d'	e'	f'	g'	a'	b'	h'	c"	d"	e"	f"	g"	a"	Ambitus	Syllaba	Loginquitas, Exemplum
1	Qui sunt hi	Patriarche et Prophete	D																		7	M(10,7)	
2	O antiqui sancti	Virtutes	D																		11	M(7, 9, 6, 5)	↑5°, 5°+4°=↑8°
3	Nos sumus radices	Patriarche et Prophete	E																		8	M(6,5)	
4	O nos peregrine sumus	Querela animarum	E																		8	M(5, 7, 8, 6)	
5	O dulcis Divinitas	Felix anima	D																		10	M(5)	↑5°, 5°+4°=↑8°
6	O felix anima	Virtutes	E																		8	M(5)	
7	O libenter veniam	Felix anima	E																		8	M(5)	
8	Nos debemus	Virtutes	E																		5		
9	O gravis labor	Gravata anima	D																		7	M(6, 5)	
10	O anima	Virtutes	E																		8	M(5)	
11	Succurrite michi	Anima	E																		9		
12	Vide quid illud sit	Scientia Dei	E																		6	M(7)	
13	O nescio quid faciam	Infelix anima	E																		6	M(8)	↓5°
14	O infelix conscientia	Virtutes	E																		8	M(6)	
15	Tu nescis	Scientia Dei	E																		8	M(8)	
16	Deus creavit mundum	Anima	E																		8	M(6,7)	
17	Fatue! Fatue!	Strepitus diaboli																					
18	O plangens vox	Virtutes	E																		8	M(5, 6, 7, 8, 10, 11)	
19	Que est hec potestas	Diabolus																					
20	Ego cum meis sodalibus bene scio	Humilitas	G																		8		
21	Nos autem omnes	Virtutes	G→D																		9		
22	Ego Humilitas	Humilitas	D																		10	M(6)	↑5°
23	O gloriosa regina	Virtutes	E																		5		
24	Ideo dilectissime filie	Humilitas	E																		9	M(7)	
25	Ego Karitas	Karitas	D																		9	M(9, 7)	
26	O dilectissime flos	Virtutes	E																		10	M(6, 5)	
27	Ego Timor Dei	Timor Dei	E																		9	M(7, 6)	
28	O Timor	Virtutes	D																		9	M(7)	↑5°
29	Euge, euge!	Diabolus																					
30	Tu autem exterritus	Virtutes	G																		9	M(7)	
31	Ego lucida	Obedientia	E																		8		

Nu.	Incipit	Rubriken	Modus	a	b	h	c'	d'	e'	f'	g'	a'	b'	h'	c"	d"	e"	f"	g"	a"	Ambitus	Syllaba	Loginquitas, Exemplum
32	O dulcissima vocatrix	Virtutes	E																		8	M⟨5⟩	
33	Ego Fides	Fides	E																		9	M⟨6⟩	
34	O serena speculata	Virtutes	E																		11	M⟨6, 5⟩	
35	Ego sum dulcis	Spes	D																		11	M⟨6, 5⟩	↓5°, 5°+4°=↑8°
36	O vivens vita	Virtutes	D																		9	M⟨8, 6, 5, 7⟩	↑5°, 5°+4°=↑8°
37	O virginitas	Castitas	E																		9	M⟨6, 8, 9, 5⟩	
38	Flos campi	Virtutes	A																		8	M⟨7, 6, 8, 11, 5, 12⟩	
39	Fugite oves	Innocentia	E																		8		
40	Has te succurente	Virtutes	D→E																		6		↑5°
41	Ego Contemptus Mundi	Contemptus Mundi	E																		8	M⟨6, 5, 7⟩	
42	O gloriosa domina	Virtutes	E																		8	M⟨6⟩	
43	Ego aurea porta	Amor celestis	D																		7	M⟨7⟩	
44	O filia regis	Virtutes	D																		11		5°+4°=↑8°
45	Ego sum amatrix simplicium	Disciplina	E																		8	M⟨7, 6⟩	
46	O tu angelica	Virtutes	C																		8	M⟨8, 12, 10, 5⟩	
47	Ego obtenebro	Verecundia	D																		11	M⟨6, 9⟩	↓5°, 5°+4°=↑8°
48	Tu es in edificatione	Virtutes	G																		10	M⟨8, 9⟩	
49	O quam amara	Misericordia	C																		10	M⟨6, 5⟩	
50	O laudabilis mater	Virtutes	C																		8	M⟨5⟩	
51	Ego Victoria	Victoria	C																		8	M⟨5, 11, 6, 10, 8⟩	
52	O dulcissima bellatrix	Virtutes	E																		8	M⟨5⟩	
53	Ego Discretio	Discretio	C																		6	M⟨9⟩	
54	O pulcherrima mater	Virtutes	C																		8		
55	Ego sum columpna	Patientia	E																		6	M⟨7⟩	
56	O firma	Virtutes	G→E																		9	M⟨7, 6⟩	
57	O filie Israhel	Humilitas	D																		11	M⟨8, 5⟩	5°+4°=↑8°, ↑5°
58	Heu!	Virtutes	E																		6		
59	O vos regales Virtutes	Penitens anima	E																		11	M⟨6, 7, 8⟩	
60	O fugitive, veni	Virtutes	E																		8	M⟨5, 8⟩	
61	Ach! Ach! Fervens dulcedo	Anima	D																		7	M⟨5⟩	
62	Noli timere	Virtutes	D																		9	M⟨5, 6⟩	↑5°
63	Nunc est michi necesse	Anima	D																		9	M⟨9, 5⟩	↑5°, ↓5°

Nu.	Incipit	Rubriken	Modus	a	b	h	c'	d'	e'	f'	g'	a'	b'	h'	c''	d''	e''	f''	g''	a''	Ambitus	Syllaba	Loginquitas, Exemplum
64	Curre ad nos	Virtutes	D																		11	M(8)	↑5°, ↓5°, 5°+4°=↑8°
65	Ego peccator	Penitens anima	E																		8	M(6, 5)	
66	O anima fugitiva	Virtutes	E																		6	M(6)	↓5°
67	Et o vera medicina	Anima	D																		8	M(5,6)	↑5°
68	O omnes Virtutes	Humilitas	D																		9	M(6, 7)	↑5°
69	Volumus te reducere	Virtutes	D																		11	M(6)	5°+4°=↑8°
70	O misera filia	Humilitas	E																		6		
71	O vivens fons	Virtutes	E→D→E																		11	M(5, 6, 8, 9)	↑5°, 5°+4°=↑8°, ↓5°
72	Que es, aut unde venis?	Diabolus																					
73	Ego omnes vias	Penitens anima	D																		8		↑5°
74	Inde tu O regina Humilitas	Anima	D																		11		↑5°
75	O Victoria	Humilitas	D																		11	M(6)	5°+4°=↑8°, ↑5°
76	O fortissimi et gloriosissimi	Victoria	D																		11	M(5)	↑5°
77	O dulcissima bellatrix	Virtutes	E																		8	M(5)	
78	Ligate ergo istum	Humilitas	D																		9	M(5)	↑5°
79	O regina nostra	Virtutes	D																		11		↑5°
80	Gaudete, o socii	Victoria	C																		9	M(5)	
81	Laus tibi Christe	Virtutes	E																		6	M(5)	
82	In mente Altissimi	Castitas	D																		11	M(5, 9, 6)	5°+4°=↑8°, ↑5°
83	Tu nescis quid colis	Diabolus																					
84	Quomodo posset me hoc tangere	Castitas	D																		11	M(5, 9)	↑5°, 5°+4°=↑8°
85	O Deus, quis es tu	Virtutes	D																		12	M(5, 7, 6, 9, 11, 8)	5°+5°=↑9°, ↓5°
86	O pater omnipotens	Virtutes	E																		8		
87	In principio omnes	?	E																		12	M(5, 7, 37)	↑5°

■＝第３章分析対象曲

・Patriarche et Prophete　父祖・預言者たち　・Virtutes　徳たち　・Felix anima/ Infelix anima/ Gravata anima　幸せな魂／不幸な魂／沈んだ魂
・Scientia Dei　神の英知　・Diabolus　悪魔　・Humilitas　謙遜　・Castitas　貞潔　・Victoria　勝利　・Karitas　愛　・Timor Dei　神への畏怖
・Obedientia　従順　・Fides　信仰　・Spes　希望　・Innocentia　純潔　・Contemptus Mundi　世俗蔑視　・Amor celestis　天上への愛
・Disciplina　紀律　・Verecundia　つつましさ　・Misericordia　慈悲　・Discretio　思慮　・Patientia　忍耐

・M＝メリスマティック
・括弧内はメリスマ部分の音数

《Ludus Danielis》 一覧表

Nu.	Incipit	Rubriken	Modus	a	b	h	c'	d'	e'	f'	g'	a'	b'	h'	c''	d''	e''	f''	g''	a''	b''	h''	c'''	Ambitus	Syllaba	Loginquitas, Exemplum	Compositio
1	Ad honorem tui, Christe,	(INCIPIT DANIELIS LUDUS)	D																					8		3°+3°＝↑5°	ほぼリピート
2	Astra tenenti cunctipotenti	Principes	D																					8	S	↑5°，3°+3°＝↑5°	×9
3	Rex, in eternum vive!	Satrape	G																					3			
4	Vos qui paretis meis vocibus :	Rex（Balthasar）	G																					7			同音型あり
5	Iubilemus Regi nostro	Satrape	C																					10		3°+3°＝↑5°	a–a–b–c–b–b–d–b–c
6	Ecce sunt ante faciem tuam.	Principes	E																					6	M（13, 10）	↑5°	
7	Vocate mathematicos	Rex（Balthasar）	D																					6		↑5°	リピート
8	Rex, in eternum vive!	magi	G																					4			
9	Qui scripturam	Rex（Balthasar）	D																					7		3°+3°＝↑5°，↓5°	同音型あり
10	Nescimus persolvere	magi	G																					4	S		リピート
11	Cum doctorum	Conductus Regine	C																					9			a×4
12	Rex, in eternum vive!	Regina	G																					9			
13	Cum Iudee captivis populis	Regina	F																					8			リピート
14	Vos Danielem querite,	Rex（Balthasar）	D																					6			
15	Vir propheta Dei, Daniel,	Principes	C																					9	M（6）	3°+3°＝↑5°	×3
16	Multum miror cuius consilio	Daniel	C→A																					7			リピート
17	Hic verus Dei famulus,	Conductus Danielis	C																					8			最初と Principes，Daniel それぞれリピート
18	Rex, in eternum vive!	Daniel	G																					3			
19	Tune Daniel nomine diceris,	Rex（Balthasar）	D																					7	S		ほぼリピート
20	Rex, tua nolo munera	Daniel	D																					8	S（一箇所だけ N）	↓5°	リピート
21	Qui sic solvit latentia	Rex（Balthasar）	D																					6	S		20 の c
22	Tolle vasa, princeps militie,	Rex（Balthasar）	C																					8			
23	Solvitur in libro Salomonis	Conductus Regine	C																					8		3°+3°＝↓↑5°	×8
24	Regis vasa referentes	Conductus	D																					8	S		パッチワーク
25	Ecce rex Darius	cythariste et Principes	D																					10			パッチワーク
26	Rex, in eternum vive!	Curia	G																					3			
27	Audite, principes regalis curie,	duo	D																					9		↑5°，3°+3°＝↑5°	リピート，同音型あり
28	Ex regali venit imperio,	Legati	D																					8		↓5°	×6
29	G'en vois al Roi.	Daniel	G																					5			
30	Congaudentes celebremus	Conductus Danielis	D																					9	S		a×6–b–a×6

Nu.	Incipit	Rubriken	Modus	a	b	h	c'	d'	e'	f'	g'	a'	b'	h'	c''	d''	e''	f''	g''	a''	b''	h''	c'''	Ambitus	Syllaba	Loginquitas, Exemplum	Compositio
31	Rex, in eternum vive!	Daniel	G																					3			
32	Quia novi te callidum,	Rex（Darius）	C																					7			同音型あり
33	Rex, michi si crediderís,	Daniel	C																					7			同音型あり
34	Rex, in eternum vive!	alii consiliarii et Satrape	G																					3			
35	Decreverunt in tua curia	alii consiliarii et Satrape	C																					9			×2　同音型あり
36	Ego mando et remando	Rex（Darius）	D																					6	S		35 の一部利用
37	Nunquid, Dari, observari	alii consiliarii et Satrape	D																					7	S	↓5°	a–a–b–c
38	Vere iussi me omnibus	Rex（Darius）	D																					5	S（一箇所だけ N）		
39	Hunc iudeum suum Deum	alii consiliarii et Satrape	D																					4	S		37 のメロ a　×2
40	Nunquam vobis concedatur	Rex（Darius）	D																					6			
41	Lex Parthorum et Medorum	Satrape	D																					7	S（一箇所だけ N）	↓5°	37 のメロ b,c
42	Si sprevit legem quam statueram	Rex（Darius）	D																					6	S（一箇所だけ N）		20 の c と似ている
43	Heu, heu, heu!	Daniel	G																					11			同音型あり
44	Deus quem colis tam fideliter	Rex（Darius）	D																					5			
45	Huius rei non sum reus	Daniel	E																					5	M（5）	↑5°	a–b–a–c
46	Abacuc, tu senex pie,	alius Angelus	D																					6		3°＋3°＝↑5°	
47	Novit Dei cognitio	Abacuc	D																					6			リピート a–a
48	Surge, frater, ut cibum capias	Abacuc	D																					7			ほぼリピート a–b–a–b'–a–c–a
49	Recordatus es mei, Domine	Daniel	E																					6		3°＋3°＝↑5°	
50	Tene, putas, Daniel,	Rex（Darius）	E																					6			
51	Rex, in eternum vive!	Daniel	G																					3			
52	Angelicum solita misit	Daniel	D																					9		↓5°	
53	Danielem educite,	Rex（Darius）	D																					6	S	↑5°	
54	Merito hec patimur,	emulos	G																					6	M（7, 8, 6）		
55	Deum Danielis qui regnat in seculis	Rex（Darius）	G																					8		↑5°	
56	Ecce venit sanctus ille,	Daniel	G																					8			×2
57	Nuntium vobis fero de supernis :	Angelus	E																					7	S（一箇所だけ N）		
※	Te Deum laudamus :	cantores																									

■＝第 3 章分析対象曲

・Principes　諸侯たち　・Satrape　太守たち　・Rex（Balthasar）　王（ベルシャツァル）　・magi　博士たち　・Regina　王妃　・Daniel　ダニエル
・cythariste　キターラ弾きたち　・Curia　廷臣（従者）一同　・duo　二人の者　・Legati　使者たち　・Rex（Darius）　王（ダレイオス）←32 以降（25 から登場）
・alii consiliarii　他の助言者たち　・（alius）　Angelus　（もう一人の）天使　・Abacuc　ハバクク　・emulos　妬んだ者たち　・cantores　先唱者たち

・M＝メリスマティック
・S＝シラビック